

氏名	井口俊博
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5102 号
学位授与の日付	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Long-term follow-up of ulcerative colitis patients treated on the basis of their cytomegalovirus antigen status (サイトメガロウイルス血中抗原検査に基づいて治療された潰瘍性大腸炎患者の長期経過観察)
--------	--

論文審査委員	教授 山田雅夫 教授 草野展周 准教授 白川靖博
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

サイトメガロウイルス (CMV) は潰瘍性大腸炎患者 (UC) に対して有害な影響を及ぼす。具体的には、易再燃性や治療への抵抗性を増やすとされている。CMV 血中抗原が陽性の潰瘍性大腸炎患者に対して抗ウイルス薬は短期的には有効だが、その長期的な予後についてはまだ十分に知られていない。今回、我々は当院でその再燃に対して治療した UC 患者について後ろ向きに検討を行い、CMV 血中抗原が陽性だった UC 患者では寛解に至るまでの期間が長いことが明らかにした。一方で、CMV 血中抗原が陽性となった UC 患者であっても、適切な抗ウイルス薬を投与することで手術率、再燃率といったその後の長期的な予後には影響を及ぼさなかった。手術率についての詳細検討では、手術率を回避する有意な因子としてガンシクロピルの使用が挙げられた。

論文審査結果の要旨

本研究では、潰瘍性大腸炎 (UC) 患者について、サイトメガロウイルス (CMV) の血中抗原陽性者と陰性者の長期経過を追跡し比較している。再燃時に治療した UC 患者について、CMV 血中抗原検査結果に応じて治療方針を決定するとともに、CMV 血中抗原陽性者と陰性者について長期にわたって経過を追跡し比較している。その結果、CMV 血中抗原が陽性だった UC 患者では、寛解に至るまでの期間が、陰性だった UC 患者に比べて長いことを明らかにした。一方、CMV 血中抗原が陽性だった UC 患者であっても、適切な抗ウイルス薬を投与することで、手術率、再燃率といったその後の長期的予後には影響を及ぼさなかった。手術率についての詳細検討では、手術を回避する有意な要因としてガンシクロピルの使用があげられた。以上の成果は、UC 患者に有害な影響を及ぼす CMV について、CMV 血中抗原検査の基づく治療方針の決定が重要であり、適切な抗ウイルス薬を投与することでその後の長期的には影響を及ぼさないという重要な知見を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。